

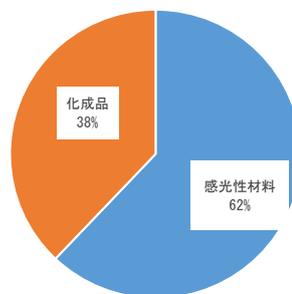
# 企業ニュース 東洋合成工業

(東証スタンダード : 4970) <http://www.toyogosei.co.jp/> 作成者:兵藤三郎

## 半導体レジスト用の感光性材料を製造

◇22.3期売上高構成比

1954年、麻酔薬などの医薬品用化学製品の製造並びに精製を目的に、日本アセチレン化学工業を設立。1961年に現在の商号に変更した。1981年に感光性材料の製造を開始した。半導体やディスプレイの製造に用いられるフォトリソは感光性材料を有機溶剤などに溶かしたもので、基盤（ウェーハなど）に均一に塗られ、露光装置によりマスクの回路図が化学反応で転写される。高純度の有機溶剤は化成品事業で展開している。感光性材料と高純度溶剤はレジストメーカー（J S R、東応化など）に納入され、レジスト製品化し半導体メーカーなどに供給される。化成品事業ではその他香料材料やロジスティック事業を展開している。23.3期を最終年度とする中期計画を1年前倒しで達成、今期より新たな中計を作成。27.3期に売上高500億円以上、営業利益80億円以上を目指す。



(出所) 東洋合成工業資料よりCAM作成

## コスト増分を価格に反映、先端品向け生産能力増強効果も享受

22.3期の業績は、売上高が331億円、営業利益が46億円、前期比57%増。22.3期期首より収益認識会計基準等を適用したため売上高の増収率は開示されないが、適用による影響11億円減を考慮すると、実質的には同26%の増収。感光性材料事業では、半導体用途、ディスプレイ用途共に好調が継続、特に先端品需要が急増し業績をけん引した。原燃料、物流コスト、生産能力増強コストなど費用増加を、価格反映、高付加価値品の増産・増販により吸収し大幅増益を達成した。化成品事業でも高純度溶剤が伸長、香料製品も堅調に推移した。

23.3期業績の会社計画は、売上高が400億円、前期比21%増、営業利益52億円、同11%増。半導体など電子材料関連の需要は好調が継続、一方で前期比約30億円の費用増加を想定。内訳は原燃料・運賃で15億円、生産能力増強に伴う固定費増が9.5億円、研究開発及び設備開発で6億円の費用増。継続的な設備投資を実施しており、需要が拡大している先端品向けの生産能力増強が寄与。旺盛な需要もあり、コスト増には前期同様に一定程度の価格反映が可能であろう。

### [株価動向・投資判断]

半導体需要拡大が業績をけん引、能力増強投資に伴う費用増も拡販で吸収、価格反映も浸透している。中期的な業績成長が見込める銘柄。

<4970 東洋合成 業績:単独>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高		営業利益		経常利益		当期利益		1株利益		1株配当	
	百万円	(伸び率)	百万円	(伸び率)	百万円	(伸び率)	百万円	(伸び率)	円	円	円	円
21.3	27,164	( 11)	2,939	( 35)	2,982	( 45)	2,345	( 27)	295.6		20.00	
22.3	33,144	( -)	4,624	( 57)	4,794	( 61)	3,457	( 47)	435.6		30.00	
23.3 予	40,000	( 21)	5,150	( 11)	5,000	( 4)	3,500	( 1)	441.0		40.00	

(注)22.3期より「収益認識に関する会計基準」等を適用しているため、売上高の伸び率は「-」表示



[主要株価指標]		(売買単位: 100株)
株価 (2022/6/3)		9,550 円
年初来高値 (高値日)		16,110 円 (22/1/4)
同 安値 (安値日)		7,770 円 (22/3/9)
予想 P E R (23.3 予)		21.7 倍
1株株主資本 (PBR算出用)		2,023.6 円
P B R		4.72 倍
予想配当利回り		0.42 %
(1株当たり配当金年40.00円)		
R O E (22.3)		24.0 %
発行済み株式数		814 万株